健康診断票を活用した思春期やせ症のモニタリング手法に関する研究

最終更新日：2015年7月8日

保健体育講座
准教授
樋口善之

キーワード　・思春期やせ症，成長曲線，学校保健，健やか親子21

研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

皆さんは「健やか親子21」をご存じでしょうか。「健やか親子21」とは，21世紀における我が国の母子保健の主要な取組を示した国民運動計画であり，「健康日本21」とともに国民健康づくりの重要施策の一つです。この「健やか親子21」には，4つの柱があり，そのうちの1つが「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」です。この思春期保健領域において特に注目すべき指標として，「思春期やせ症」が挙げられております。

「思春期やせ症」とは，神経性食欲不振症とも呼ばれ，いわゆる心身症の一つと考えられています。痩身願望が強く，体重が減少してしまう病気ですが，その背景には，心に問題を抱えながらもそれを解決しようと行動する代わりに，食べる，食べないという食をめぐるこだわりに置き換え，心身の機能不全に陥る摂食障害の一つであると考えられています。

厚生労働科学研究班により，思春期やせ症に関する全国調査が，2002年，2005年，2009年，2013年に行なわれ，最新の調査によりますと，その頻度は1.26%であることが報告されています。この一連の調査では，標準体重からの“やせ”だけではなく，本来その児童生徒がもっている成長曲線を基に，思春期やせ症の判定を行なっています。具体的には，「児童生徒等健康診断票」を利用し，小学校入学時から高校卒業時までの身長・体重のデータを発育曲線上にプロットしながら，急激なやせ傾向の出現を観察しています。

私は厚生労働科学研究班（主任研究者：山縣然太朗 山梨大学教授）のメンバーとして，2009年，2013年の全国調査を担当しました．具体的には，収集したデータのハンドリングや判定アルゴリズムの作成に携わり，思春期やせ症に関するモニタリング手法の確立に関する研究に取り組んでおります。

成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

応用可能性として，健康診断票等から得られるデータを活用した保健管理・保健学習の充実に貢献することができます。

保健管理であれば，生徒・児童の成長曲線の描画から思春期やせ症や不健康やせ（いわゆる痩身児）のスクリーニングを実際の学校現場で行っていくことを支援できます。またそれ以外の保健情報（生活習慣や学校生活管理指導表など）をリンクさせ，学校保健上の管理課題を見える化し，エビデンス・ベースドなハイリスクアプローチの展開にも貢献できると思います。

また，保健学習として，自身の発育曲線を作成する手順やその背景理論（成長チャンネルの考え方など）を教材化し，健康な発育における栄養・運動・休養の重要性について考える学習にも役立てることができると思います。

なお，上述の健やか親子21における一連の思春期やせ症研究の成果を学校現場に応用することについては，「学校における思春期やせ症への対応マニュアル（少年写真新聞社，2011）」としてまとめられております。例えば，毎年行なわれている健康診断の結果を活用して，思春期やせ症のスクリーニングを行なう方法やスクリーニングテストが陽性の場合における対応等がまとめられています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

【教育的支援・助言等】
・福岡教育大学附属久留米小学校研究発表会 福岡教育大学附属久留米小学校 平成25年度
・福岡教育大学附属福岡小学校研究発表会 福岡教育大学附属福岡小学校 平成25年度

【審議会委員会等】
・田川市生涯学習審議会 委員 平成15～19年度